

回想法センター・劇・4月号

平成31年3月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
email: pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
HP: www.piakaiso.sakura.ne.jp

愛は十人十色・百人百様・千差万別

そんな愛し方もありかな？

樹木希林さんの後を追うように夫の内田裕也さんが亡くなりました。生まれる前から両親は別居、父親と暮らしたことの無い娘也哉子さんは「本当にお前は俺の子か？」と父親に尋ねられ返事に困ったこともあったと。希林さんが亡くなった後に、新聞の企業広告に、いかにも幸せそうな3世代7人家族の写真が掲載されていた。樹木希林さんと夫の内田裕也さん、長女内田也哉子さん、也哉子さんの夫本木雅弘さん、そして3人のお孫さん。新聞の1ページいっぱい大きさで、ほのぼのとしたごく平凡な家族の集合写真でした。

新婚の頃から夫は家にもどらない。帰ってくれば口論になる。あまりの騒動しさにマンションの階下の方は引っ越したほど。勝手に離婚届を出した夫と法廷闘争の末、離婚は不成立となったが、別れることなく半世紀近く、話題に事欠かない別居生活を続けてきた。内田裕也さんの最後のライブでは、妻希林さんの大好きだった「朝日の当たる家」を歌っていたとテレビにその時の映像が流れていた。最後まで希林さんに「頑張れガンバレ」と呼びかけてた夫も妻のいる天国へ。必要としながらも距離を置く、そんな愛し方もあるのですね。

こんな愛も

作曲家シューマンと結婚したクララ・シューマンのお話です。クララの父は大学教授。クララを天才ピアニストに育て、ヨーロッパで演奏会をして回るようになりクララの演奏は絶賛された。クララの父は今で言うステージパパに。クララはシューマンと出会い恋をしましたが、二人の結婚を父は猛反対。二人の結婚は法廷で争われ結婚することができた。長年の夢が叶ったシューマンの創造力は頂点に達し数多くの名曲が生まれています。

一方のクララは1840年末から、1854年6月までの13年半の間に10回妊娠し、8人の子供を産みました。この身体の休まる間もない中で、クララは作曲家シューマンを支える妻、家計の一翼を担うコンサートピアニスト、そして作曲家として活動するという、実に多忙な日々をおくりました。当時のヨーロッパでは、男は外で仕事をする、女は家で家事育児をするのが当たり前で、女性が仕事をするのはタブーでした。クララは、演奏家として、作曲家としても素晴らしい曲を残しています。最後の100マルク紙幣にクララの肖像が使われています。



4月の予定

4月 2日 (火)	うたごえ広場	2時～4時	ショッピングセンターリブラ1階
4月14日 (日)	映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階
4月17日 (水)	笑顔屋	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
4月19日 (水)	家族会	10時30分～12時	ショッピングセンターリブラ1階
4月28日 (日)	映画会	1時30分～	ショッピングセンターリブラ1階

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター 080-4209-5708 担当 赤嶺